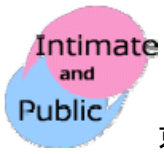


学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	(みょうき し のぶ) 妙木 忍	所属・職名 東京外国語大学 AA 研、ジュニア・フェロー
e-mail	myoki@aa.tufts.ac.jp	
発表題名 (英語)	The Feminization of Tourism and the Transformation of Erotic Museums (<i>hihōkan</i>) in Japan	
著者名	Shinobu MYOKI	
会議名 (英語)	XVII ISA World Congress of Sociology	
開催地(国、市)	Gothenburg, Sweden	
参加期間	2010年7月11日～7月17日	
<p>報告者は、2010年7月11日～7月17日にスウェーデンのヨーテボリで開催された ISA World Congress of Sociology に出席した。その際に、GCOE の渡航助成を受けた。報告者は、RC13 (Sociology of Leisure) と RC32 (Women in Society) に所属しているが、今回の学会では、RC13 と RC09 (Social Transformations and Sociology of Development) の Joint Session (JS23: RC13/RC09 Social Transformations and Changing Leisure Patterns) にて発表した。2010年7月15日 15:30-17:30 に Svenska Mässan (G4) において開催された本セッションでは、当該テーマにそって、日本のほかにも、フランス、フィンランド、スペイン、ルーマニア、モロッコなどの事例が発表された。</p> <p>報告者は、日本の秘宝館の盛衰について発表した。迫真性の高い身体を模造し、収集し、展示し、そこを人びとが訪れる現象(「複製身体の観光化」)に注目し、その一つである秘宝館をとりあげた。2005年から調査を進めている6館を分析対象とした(2館は2007年と2009年に閉館)。「身体 of 展示」という視点を導入すると、秘宝館の起源には医学展示があると考えられること(1972年伊勢)、のちの秘宝館(1976年～1983年開館)においては医学的要素が除去されアミューズメント性が強化されたことがわかる。その理由を、戦後日本の社会史的背景とともに考察し、発表した。秘宝館は、「身体 of 展示」を軸にすると、医学から娯楽への転換を示すものといえる。秘宝館は、日本の一つの事例ではあるが、「複製身体の観光化」という現象そのものはひろく見られるものであり、「なぜ複製化された身体が観光の対象になるのか」というより大きな問いに接続しうる。</p> <p>発表後、観光客の変化についての質問をフロアからいただいた。またセッション終了後にも、本発表の内容に関心を示された研究者2名と話し合う機会を持つことができた。会場には、社会学者だけではなく人類学者も参加されており、今後、交流を深めていきたいと考えている。また、本セッションでは、さまざまなテーマで発表がなされ、「余暇の社会学」の広がりを感じた。</p> <p>今回私は、自身の発表だけではなく、RC32 (Women in Society) の議論も頻繁に聞きに行き、大変刺激を受けて帰国した。この機会に、深く感謝している。</p>		



京都大学文学研究科 グローバル COE 「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

学会発表渡航支援報告書

